

みどりのあそび場



～思いやりの心、命・もの・自然を大切にする心を育む体験の場づくり～

株式会社小学館集英社プロダクション 総合保育事業部

【事業説明】

当社の総合保育事業は主に認可保育所を全国で 50 園ほど運営しています。

保育所は、多くの子どもが日常の大半を過ごす場所であるからこそ、感性や思考力が育ち、心情を豊かにする体験ができる環境でなければなりません。

そこで当社は、子どもたちの成長にふさわしい生活環境を提供するために、「みどりのあそび場」という名前をつけ、敷地内に可能な限り「地域本来の自然」を取り入れています。

当社が運営する「小学館アカデミー保育園」では保育理念を「あったかい心をもつ子どもに育てる」としています。「あったかい心」は「愛情・信頼・認め合い・思いやりの気持ち、その気持ちのこもった行動が素直に表現できること」であると考え、そういった健全な心の発達を促すものとして、園内に自然と子ども達が触れ合える場を確保する意義は非常に大きいと考えています。

●『楽習保育®』による子ども達への援助

当社には保育理念に基づいて構築した「楽習保育®」という、「あそびやせいかつ」などの日常の一部を「まなび」に連続させることを目的とした保育プログラムがあります。そのなかにある「ネイチャープログラム」を、園庭ビオトープでは最大限に活用して展開しています。

「ネイチャープログラム」は自然環境を通した「つくる」「そだてる」「みつける」「かんじる」に対して子ども達が主体的に取り組み、数感覚・図形感覚を養い、具体物の操作や体験を通した学びをするものです。

野外環境はもちろん、屋内環境も人も地域も、その全てが保育所であり、「子ども達が成長する環境」であるという意識を大切にしています。



【子ども達・地域の反応 ～かりやど保育園の例～ 】

●かりやど保育園では、「ビオトープに行こう！」という声が、子ども達の口から自然に出てきます。これはビオトープという自然環境が、子ども達の日常に浸透しているからです。

保育士たちは日々の保育において、ビオトープとの関連付けを意識しています。例えば朝の会で蟻や蝶、カタツムリが出てくる歌を選ぶのは、壁面にそのイラストがあり、さらにビオトープでその存在に触れられるからです。

日常の遊びを言葉や知識にひもづけ、興味関心の発育を促していく道筋があります。

子ども達が率先してビオトープを探索し、「これをどけるとダンゴ虫がいるんだよ」と石をどけて大人達に見せてくれます。見たことのない昆虫、草を見つけると、図鑑を開こうと子ども達から提案することもあります。

そんな発見や観察が、かりやど保育園では日常の一部となっています。

●保護者向けには、保護者会を開催する際、必ずビオトープの案内から始めています。季節の移り変わりや田んぼの成長を紹介し、改装した築 150 年の蔵のなかに連れて、木のぬくもり、香りを感じていただいています。保護者にとって、子どもとの会話に出てくるビオトープの存在を身近に感じることは、一つの感動となっています。

●また、地域に向けて定期的に園庭開放を行い、その度に近隣に住む親子が遊びに来ています。ビオトープに入る一歩目で起きる落ち葉の音一つでも、それは来園者には都会では得難い、貴重な体験となっています。リピーターが多くいる来園者のなかには入所予定の親子もあり、入所前から親子と職員が顔を合わせて交流できることは、入所後の保育環境を整える上でも大きく貢献しています。

(小学館アカデミーかりやど保育園園長へのヒヤリングから文章を作成)

(写真は小学館アカデミーりよくえんとし保育園・むさししんじょう第2保育園のもの)



【事例紹介】（東京都2園・神奈川県4園・千葉県1園）

当社の運営する小学館アカデミー保育園では地域在来の樹木や野草を積極的に植栽し、面的に確保できる場所では園庭ビオトープとして樹林、もしくは草地を整備しています。

【小学館アカデミーかりやど保育園】（神奈川県 川崎市 元住吉）

開発コンセプト: 見て、触れて、感じられる、地域の歴史と自然環境の融合

2012年キッズデザイン賞受賞歴もある「かりやど保育園」です。

かりやど保育園は平成24年4月に認可保育所として開園し、園庭の一角に自然コーナーを設けるのではなく、地域にある里山の自然をお手本に雑木林を創出しました。限られた空間で多様な体験が展開できるよう、築山で起伏をもたせ、田んぼ、櫓、土管トンネルなども設置しました。

また、その土地が有する歴史を保全し、子ども達に伝承していくため、元々あった「築150年の蔵」の補強と改装を行うと共に、「樹高10mの樺」を残しました。昨年の秋は、クヌギのどんぐりやクリのいがが、子どもたちの最もお気に入りの遊び道具でした。



左：全体図 奥に位置するのが築150年の蔵

真ん中：蔵の内部



【小学館アカデミーむさししんじょう第2保育園】（神奈川県 川崎市 武蔵新城）

開発コンセプト:「エコシティたかつ」の推進と縄文人から続く生活の歴史

☆☆ JHEP 認証 (AA+) 取得 ☆☆☆

平成 25 年 4 月に開所した「むさししんじょう第2保育園」では、近隣地域で過去に貝塚が発掘され、縄文時代に人々が生活していた歴史があることを踏まえ、象徴として竪穴式住居を建設しました。

また、約 150 m²にわたって林のビオトープを整備し、子ども達の遊びの興味を促すように築山によって起伏をつけ、丸太の一本橋、切り株園路なども設け、日常的に活発な自然交流が可能となるようにしています。



【小学館アカデミー柏しこだの森保育園】（千葉県 柏市）

コンセプト: ・獅子舞や特産物など歴史文化の保全 ・近隣住民と畑のシェア

☆☆ JHEP 認証 (AA+) 取得 ☆☆☆



屋上緑化の取り組み（繁茂する前）

【小学館アカデミーにしおぎ南保育園】（東京都 杉並区 西荻窪）

開発コンセプト: 電車と共に発展した、文化豊かな地域の歴史と自然環境保全

☆☆ JHEP 認証 (AA+) 取得 ☆☆



【小学館アカデミーりょくえんとし保育園】（神奈川県 横浜市 緑園都市）

開発コンセプト: モダンな町づくりと「緑の園」の融合



【小学館アカデミーつなしま保育園】（神奈川県 横浜市 綱島）

開発コンセプト: 大正時代に温泉があった歴史と人々の賑わい



【小学館アカデミー茗荷谷保育園】（東京都 文京区 茗荷谷）（いえトープ）

開発コンセプト:「市街地の中に豊かな緑とアートがある」茗荷谷エリアの特性とマッチング

いえトープ：敷地内に園庭を確保できない保育園の子ども達でも自然との触れ合いを持ち、四季を感じ、生活の一部に『みどり』の存在があってほしいという願いから、屋内に地域本来の植物を植栽したプランターを設置しています。施設環境によって子どものあそびの制限を作らないことを目的としています。



（整備予定）

小学館アカデミー 西いくた保育園（仮称） 神奈川県 川崎市 西生田 2014 年 4 月開所予定

小学館アカデミー いちかわ南保育園（仮称） 千葉県 市川市 2014 年 4 月開所予定

【コンセプト・開発の考え方】

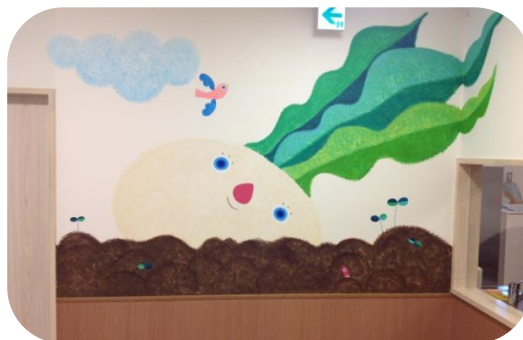
●子どもの多様な遊びが展開できる環境

当社は園庭づくりにおいては、公益財団法人日本生態系協会など、生物多様性の専門組織の助力を受けながら設計しています。植栽する植物は園庭ビオトープにとどまらず、敷地全体において地域の在来種を中心に選定し、さらに樹木だけではなく、スミレやチガヤなどの野草も積極的に取り入れました。

これは、闇雲に緑を増やすのではなく、子どもたちが地域の自然情景が四季によって移り変わることを体感し、個人や団体の創造力をもった多様な遊びが展開できるように考えたものです。

●『地域』の文化と歴史を表現する壁面イラスト

屋内にいても、地域の自然や動植物、それらによって築かれた文化や歴史に関心が向くよう、園舎内の壁面に「株式会社 DADWAY」の協力のもと、プロのイラストレーターによって、描画を施しました。例えばむさししんじょう第2保育園では、保育園のある神奈川県川崎市高津区の区木である梅、区鳥である燕を、子ども達が感覚的に理解できるよう、目にも心にも優しいタッチで表現しました。「みどりのあそび場」と合わせて、地域に昔からある自然、文化、歴史を子ども達に知ってほしいという願いが込められています。



右：柏しこだの森保育園 地域の特産物であるカブ（子どもの体よりも大きい！）

【今後の展望】

面積に余裕の無い園のビオトープ整備に注力したいと考えています。プランター（いえトープ）などを活用し、また子ども達への職員による援助の方法を工夫していくことで、例え小さな空間だったとしても、最大限に子どもと生物多様性が交わるように努めます（小学館アカデミー茗荷谷保育園が1園目）。

保育所が増えることが直接的に地域の自然環境を復活・保全することになり、さらにその「地域の自然を理解する人々」を増やすことでもあって欲しいと当社は考えています。

子ども達が成長したとき、自然と共に育ち、自然を通して学んだ、自然を愛する人間になってほしいと、当社は考えています。

